

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-162	013-048	滋賀医科大学社会医学講座講習衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Is the prevalence of driving after drinking higher in entertainment areas? 飲酒運転の割合は歓楽街で高いか？		
<b>執筆者</b>		
De Boni R, Pechansky F, Silva PL, de Vasconcellos MT, Bastos FI.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Alcohol. 2013 May-Jun;48(3):356-62. doi: 10.1093/alcalc/ags126. Epub 2012 Nov 27.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒運転、酒場		23186650
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 本研究は、ブラジルの都市ポルトアレグレにおける飲酒運転頻度、および酒場の高密度エリアと低密度エリアそれぞれにおける関連要因の評価を目的とした。</p> <p><b>方法：</b> 3層化抽出で酒場から出てきた 683 人の運転手に対して、飲酒に関するインタビューを行い、薬剤スクリーニング目的に呼気テストと唾液採取を行った。酒場の密度は domain estimation によって算出し、飲酒運転の予測因子はロジスティック解析で分析した。</p> <p><b>結果：</b> 151,573 人の運転手が酒場で酒を飲み、飲酒運転の割合は酒場の多いエリア(46.1%)に比べて酒場の少ないエリア(59.3%)で有意に高かった(P = 0.003)。一方、酒場の多いエリアでは血中アルコール濃度が高く(46.6% vs 30.7%、P=0.002)、またコカインの使用頻度も高かった(9.3% vs 2.4%、P=0.086)。テトラヒドロカンナビノール(大麻含有成分)の使用は酒場の多いエリアと関連があった(OR17.7(5.1=61.8))。一方、AUDIT スコアが 20 点を超えることは酒場の少ないエリアでの飲酒運転と関連があった(OR 23.75, (1.5-364.0))。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒運転者は酒場が多いところと少ないところの両方で多くみられたが、飲酒者はそれぞれでの特徴に違いがみられた。飲酒運転や交通事故を少なくするためには、酒場のライセンス面と合わせてランダムな呼気テストや飲酒チェックポイントによる法制度面の徹底的な強化の両面で行う必要がある。</p>		